

# 市 政 報 告

令和 5 年 3 月 6 日  
第 1 回市議会定例会

令和 5 年第 1 回市議会定例会に当たり、市政の主なものについてご報告申し上げます。

はじめに、「職員の新型コロナウイルス感染」について申し上げます。

令和 5 年 1 月 27 日の市政報告以降から昨日までの間、北海道岩見沢保健所により、本市職員 4 名の感染が確認されましたが、業務において市民との接触がないことを確認し、その後、自宅療養等を経て、職場復帰しております。

次に、「新型コロナウイルス感染症に対する本市の対応」について申し上げます。

北海道では、2 月 15 日の対策本部会議において、基本的な感染防止対策を維持するとともに、「マスクの着用については、3 月 13 日から個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねることを基本とする」ことを決定し、周知を行っていくこととしています。

市としましては、このような道の動向を踏まえ、3 月 1 日の対策本部会議において、基本的な感染防止対策を継続するほか、マスク着用についても道と同様に取組を進めていくこととしております。

また、本定例会におきましては、令和 4 年度補正予算として、新型コロナウイルス感染症及び世界情勢等の影響によるエネルギー価格の高騰を受け、施設の指定管理料に係る予算を新たに提案するとともに、令和 5 年度当初予算において、国の総合経済対策及び令和 5 年度予算案を踏まえ、必要な感染症対策予算を提案するものであります。

今後とも、市民の皆様が一日でも早く通常の生活や事業活動を取り戻すことができるよう、職員と一丸となって「市民の命と暮らしを守る」対策を切れ目なくしっかりと講じてまいります。

次に、「新型コロナウイルスワクチンの接種」について申し上げます。

「オミクロン株対応 2 価ワクチン」の接種につきましては、接種対象者約 18,000 名のうち、接種要件を満たした 17,206 名に接種券を発送し、順次接種を進めているところであります。

今後のワクチン接種の在り方につきましては、国の動向をしっかりと見極めながら、必要な対応を行ってまいります。

次に、「ゼロカーボンシティ宣言」について申し上げます。

国は、「2050 年カーボンニュートラル」を宣言し、北海道においても、「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しているところであります。

本市においても、令和 5 年(2023 年)3 月 1 日、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

今後は、市民や事業者の皆様と連携を図りながら、脱炭素社会の実現に向けた取組をさらに推進してまいります。

次に、「ふるさと美唄応援寄附金」について申し上げます。

「ふるさと美唄応援寄附金」につきましては、本年2月末日現在で、すでに昨年度の実績額を上回る16億5千万円のご寄附をいただいているところであります。

今後とも、たくさんの方々の美唄市に対する想いや期待にしっかりと応えるため、市民の皆様とともに美唄らしい地域づくりに、より一層取り組んでまいります。

次に、「市立美唄病院の建替え」について申し上げます。

昨年、契約しました実施設計業務委託が完了し、工事費が確定したことから、工事費の変更に伴い2月22日の市議会臨時会において補正予算を議決するとともに、3月1日、株式会社ピーエス三菱を代表とした地元企業5社を含む9社で構成する「市立美唄病院建替え事業受注コンソーシアム」と工事請負契約を締結しました。

建替えに当たっては、国の地域医療構想に沿った「美唄らしい地域医療」の在り方として、「治し支える医療・地域完結型」を目指すとともに、保健・医療・福祉・介護・住まいとの連携による「地域包括ケアシステム」を構築するという、2つの取組を車の両輪として、これからの超高齢社会を支える基盤づくりを、全国に先駆けて、先導的に取り組んでまいります。

今後につきましては、事業スケジュールどおり、令和5年度末の完成に向け着実に進めてまいります。

以上、申し上げまして報告を終わります。

## ゼロカーボンシティ美唄市

～2050年二酸化炭素実質排出ゼロを目指して～

近年、全国各地で、局地的豪雨、豪雪などの大規模な自然災害の多発により、日常生活の安全・安心が脅かされており、地球規模の温暖化への対応は喫緊の課題となっております。

国は、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出する、化石燃料に頼らない「脱炭素社会」の実現に向け、「2050年カーボンニュートラル宣言」をしたところであり、北海道では、「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明し、北海道の有する豊富な再生可能エネルギーや森林などの吸収源を最大限に活用しつつ、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進める「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しています。

このような中、本市では、「第7期美唄市総合計画」において「ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい」を都市像として、豊かな自然環境の保全と共生を図ることにより、人と自然が共生した安全・安心のまちづくりを進めているところであり、緑豊かな農村景観や明瞭な四季が織りなす美しい自然環境などの豊かな地域資源を次世代に引き継いでいくため、温室効果ガス削減の取組を推進し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことをここに宣言します。

令和5年(2023年)3月1日

美唄市長 板東 知文